

図-1 上高地の概念図

り、日本を代表する景勝地の一つにもなっている。また、大正池から明神池までの間に延長約5.4 kmにわたる自然遊歩道が出来ており、入込者が“自然とのふれあい”を求める恰好の探勝コースにもなっている。

表一 アンケート調査項目

上高地を訪れている皆さんに上高地の印象などについてアンケート調査をしておりますので、誠に恐れ入りますが、次の項目について、貴方のご意見をお聞かせ下さい。(番号に○印)

松本営林署

性別 男 女 年齢 (歳) 記入 月 日

問1 どちらから 来ましたか。 都道府県名 ()

問2 上高地へ来た 動機は ?

問3 どんな目的で 来ましたか。

問4 どんな交通機関を利用しましたか。

問5 上高地周辺の山々は国で経営しておりますが、知っていますか。

問6 上高地の景観は素晴らしいと思いますか。

問7 自然遊歩道を散策して、感じたことは ?

問8 自然遊歩道周辺の樹木、植物に名札が必要ですか。

問9 上高地のマイカー規制について どう思いますか。

問10 貴方はゴミの処理をどうしましたか。

問11 また来たいと思いますか。

問12 このほか感じたことを書いて下さい。

II 調査方法と結果

あらかじめ、12項目のアンケートを作成し上高地で旅館等を営業している。

○大正池ホテル、○上高地温泉ホテル、○西糸屋旅館、○村営ホテル、○山荘よしきや、○明神館、○かもんじ小屋、計7軒

洞沢で山小屋を経営している

○洞沢ヒュッテ、○洞沢小屋、計2軒

合計9軒に依頼し滞在型の入込者が任意に記入したものを回収したものである。

○調査期間

自昭和62年6月～至昭和62年9月の4ヶ月間

○アンケート総枚数 2,000枚

○回収枚数 1,177枚

○回収率 58.8%

以下、アンケート集約の結果を図表により説明する。

1. 入込者の年齢

20～40歳代が多く全体の70%を占めており、20歳代は気軽に行動出来ることを示し、30～40歳代は家庭サービスが何がわれる。

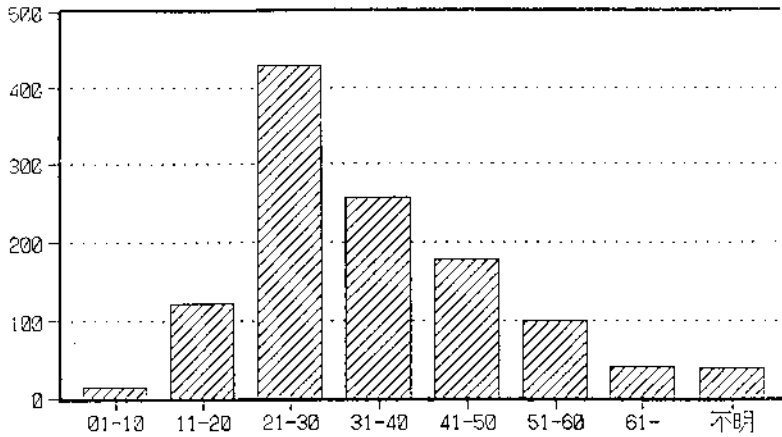


図-2 入込者の年齢別

2. 入込の動機

有名だからが多く知名度の裏付けとなっており、友達の誘いについては、比較的若い人に多いことが伺われる。

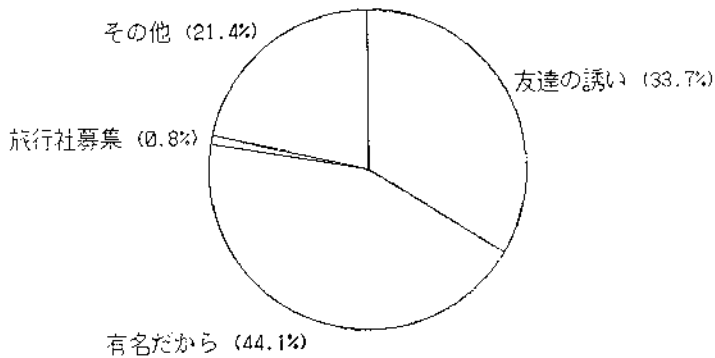


図-3 入込の動機

3. 入込の目的

地方別では、関東甲信越及び中部関西が圧倒的に多く目的別では男性が登山、女性は自然探勝が多い結果が出た。

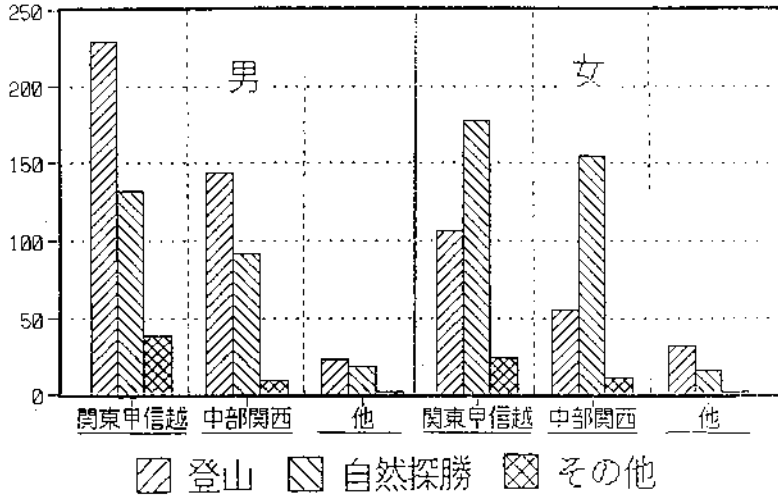


図-4 入込の目的

4. 利用した交通機関

JR等46%は交通事情を承知の結果である。マイカー36.5%は最近の車社会の影響とみられる。

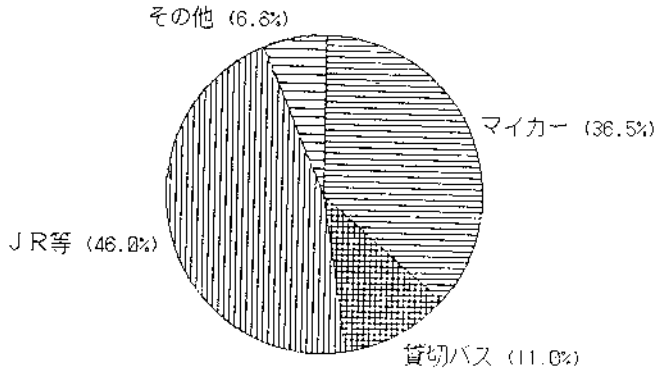


図-5 利用した交通機関

5. ここは国（営林署）で管理しているが？

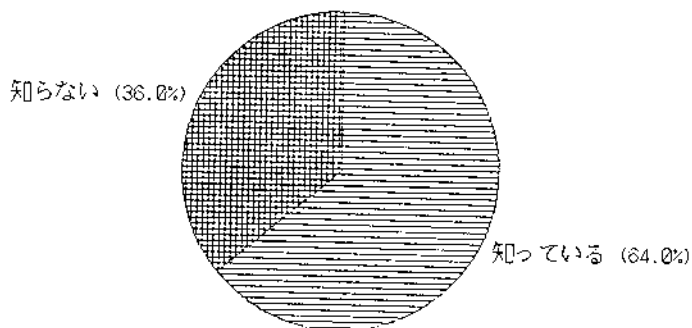


図-6 ここは（営林署）で管理しているが？

更に国有林のPRが必要であると痛切に感じた。

6. 自然遊歩道を散策して空気がよい、周囲の景色併せて81%と多く十分自然探勝が楽しめたという結果が出た。

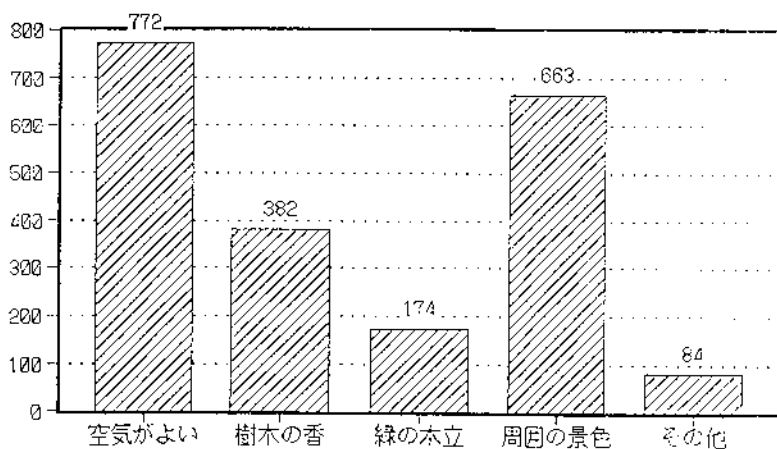


図-7 自然遊歩道を散策して

7. マイカー規制

入込者の大多数が自然を守るために原状が更に規制強化を望んでいる結果となった。

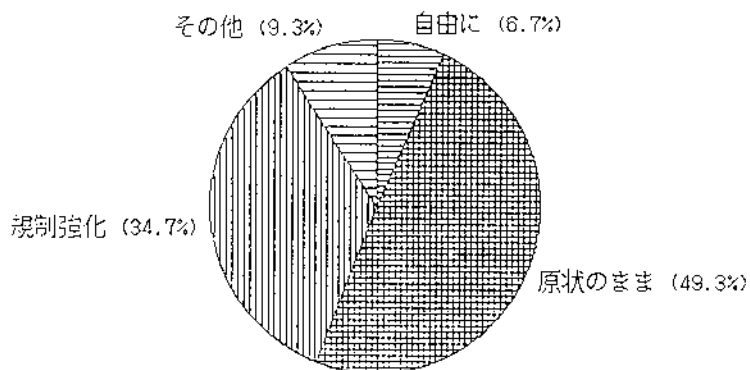


図-8 マイカー規制について

8. 印象と期待等

今回の調査で感じたこと、思ったことのなかで多かったものをまとめた結果

表-2 印象と期待等について

1	現在の自然を守って	374人	37.3%
2	自然を守るには入込者の自覚が必要	65	
3	景観が変わって失望した	114	9.7
4	登山道の整備が必要	47	
5	もっと国有林のPRをしたら	32	10.2
6	その他	41	
7	無回答	504	42.8

(1) 期待

- ア. 現在のままの自然を守って欲しい、多少手を加えても現状の維持を望む。
- イ. 関係者が景観保全に努力しても、入込者自身がお互いに規制を守ったり、自然を破壊しないよう自覚することが必要であるとの意見もあった。

(2) 印象

- ア. 大正池や河童橋周辺の河床が上流からの土砂流入により以前と景観が変わり失望した。

(3) 要望

- ア. 登山道の栈道、橋、崩壊地を横切る時危険な箇所が見受けられるので整備を、また登山道の標識の整備をして欲しい。
- イ. 現在、上高地国有林でどのような仕事をしているのか、わかり易い施業の説明の看板や、「ようこそ国有林へ」などの看板を立て国有林のPRが必要だ。
- ウ. 遊歩道にベンチや便所設置、違法駐車取締りの徹底などであった。

III 考 察

入込者は関東関西方面の大都市及びその周辺都市の地域からが多く、その他各項目に表われた傾向は「自然景観を変えない努力を」「素晴らしい自然をいつまでも守って欲しい」の2点につきると思われる。

このことは人々の生活が向上し、「ユトリ」が生じたことから、その価値感が「モノ」の豊かさを「自然とのふれあい」に求めた結果であろうかと考えられる。こうした傾向は最近総理府が行った「国民生活の世論調査」のなかで、今後の生活の力点は「レジャー余暇生活」の充実であったと発表されていたが、集約の結果はそれを裏付けたものとなった。

IV まとめ

国有林野に従事する私達が、入込者のニーズに応えるため、今後の管理の方向として“自然の力”で荒れて行くとも云われているが、梓川溪流の不安定堆積土砂量は200万 m^3 にも達しておりこれらの不安定土砂の流出が景観を変える大きな要因ともなっていることから、早期に“自然に馴染み易い工法”を施行して、不安定土砂の安定を図り、森林の持つ本来の保全機能を十分発揮できる環境を整えてやる事が景観保持にもつながるものと考えられる。

またこうしたことが、洪水時の河床の上昇や倒木、流水木などによる道路等の災害防止もでき、最近多様化してきている入込者の安全を確保することにもつながるものと考えられる。

高速道時代を迎えたと云われる今日、入込者は今後更に増えることが予想されることから、人や車等により自然の生態系のバランスが崩れ荒廃が進み、本来快適であるべき「自然とのふれあい」も損われる危険性も多分に考えられることから、入込者の抑制を検討する時期がきているものと考えられる。

表-3 今後の管理の方向について

- ◎ 自然景観の保全
- ◎ 入込者の安全確保
- ◎ 快適な利用
- ◎ 国有林のPR

おわりに

国有林野を管理している営林局署は、現在ある指導標や看板など更に充実し、ポスター、チラシの利用方法なども十分検討し、いつまでもこの素晴らしい自然景観を保持し、入込者が快適な自然探勝を楽しめるよう懸命に努力していることをもっとPRすべき必要があるし、折にふれて入込者の傾向を把握するよう心掛けることも重要であると感じたものである。